

第4回 静岡市立の高等学校の在り方検討委員会 資料

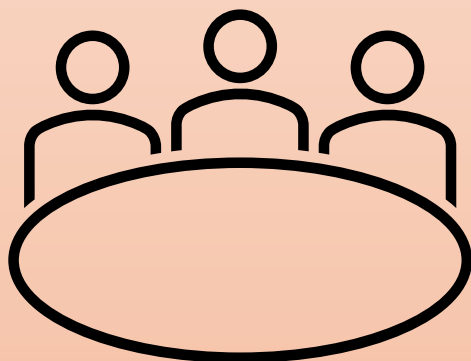
令和7年(2025年) 11月12日開催

1 はじめに

(1) これまでの検討委員会の振り返り

(2) 視察報告

- ・千代田区立九段中等教育学校
- ・神奈川県立神奈川総合高等学校



2 協議

【協議1】「新しい静岡市立の学校」での学びについて
～中核となる分野と学びの展開例～

【協議2】 意見集約に関する協議

- ① 最終的な意見集約(提案書)の構成
- ② I 提案の背景と目的
- ③ II 「新しい静岡市立の学校」の設置意義
- ④ III 「新しい静岡市立の学校」に関する具体的な提案
- ⑤ IV 提案の実現に向けた意見・要望

【協議3】 アンケートの実施について
～現時点で絞り込まれつつある設置形態等に関するアンケート～

第1回検討委員会（令和7年4月28日）

在り方検討の視点についての委員意見

- 市立の高校の成り立ちを踏まえ、県立でまかなえない人数を埋めるだけなら県立だけでよい
- 市と県が連携しつつ、静岡市独自の教育の枠組みと方向性を明確にすべきである
- 市がどのようなビジョンと覚悟をもっているかを明確にするべきである
- 県で採用した職員が市立の高校にいく、今のこのやりかたでは、市の独自性は本気では目指せない。

検討プロセスの変更を共有

※4視点ごとの検討改め

【第2・3回】市のビジョン案に基づく

具体性・実現性

【第4回】学校の規模

【第4・5回】意見集約の素案作成、素案の協議

第2回検討委員会（令和7年6月18日）

委員意見への回答

(1)静岡市が高校を持つ意義

市が求める人材(資質・能力・知識)の育成が、今後の市が高校を持つ意義となる(質的な供給責任)

(2)「新しい学校の姿」の市のビジョン(案)

静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人を育成する場

(3)運営体制の改善策

高校教職員の県依存体制の改善案
(市の中学教員を交流派遣、校長等を市が採用等)

各類型(案)についての協議

- 現時点で考えられる7つの設置形態を提示
- 単位制高校(3年)に加え、
「高校へつながる」 中等教育学校、中等部+高校
「高校からつながる」 高校+専攻科、高等専門学校、大学の附属高校

第2回検討委員会（令和7年6月18日）

(1)～(3)についての委員意見

(1)市が高校を持つ意義 (2)市のビジョン案 (3)運営体制の改善策

連携

- 静岡市と静岡県教育委員会の方向性をすり合わせ、教育政策の整合性を確保すること
- 国の施策と連携して進める視点も重要である

財政

- 設置にかかるコストと運営負担を十分に精査し、制度(交付税など)の活用を模索すること

人材

- 新しい教育体制(教員の配置や外部人材の活用等)の構築を視野に入れ検討を行うこと

各類型(案)への委員意見

- | | |
|-----------|--------------------|
| ① 単位制高校 | → 実現可能性が高い、新規性が課題 |
| ② 高校＋専攻科 | → 学科、専門学校等との役割検討 |
| ③ 高等専門学校 | → 設置コスト、人材確保が大きな課題 |
| ④ 大学の附属高校 | → 設置の難易度が高い |
| ⑤ 中等教育学校 | → 学びの継続は○、市の人材育成△ |
| ⑥ 中等部＋高校 | → ⑤の意見＋公設民営は大きな課題 |
| ⑦ 中学＋高専 | → 実例がないため意見交換の対象外 |

第3回検討委員会（令和7年9月9日）

「新しい学校の姿」の更なる協議 ～協議を深める資料等の提示～

- (1)各類型の事例
- (2)【連携】静岡県教育委員会との意見交換
- (3)【連携】高校改革に関する国の施策
- (4)【財政】補助金・運営コストの状況
- (5)【人材】外部人材活用の制度

【協議】

- (1) 観点(案)についての意見交換
- (2) 「新しい学校の姿」に適した設置形態
- (3) (2)の設置形態で実践できる学びについて

※実現可能性の低い、④大学の附属高校と
⑦中学＋高専 を除く5つの類型を対象に協議

第3回検討委員会（令和7年9月9日）

「新しい学校の姿」を絞り込む

- 観点1: 入学時に生徒や保護者に選ばれる設置形態
- 観点2: 在校中に自分の強みを認識し、それを伸ばす学びの提供
- 観点3: 在校中に静岡市をよく知り、愛着を育む
- 観点4: 卒業後に静岡市に定着する割合を増やす
- 観点5: 実現可能性（財政・制度面など）

1. 設置形態について

類 型	良い点	課 題
高校単独（3年）	<ul style="list-style-type: none"> □ 多様な科目選択が可能で、柔軟なカリキュラムが組める □ 教育課程の「余白」が創出できる □ 神奈川総合高校のように、高い進学実績も期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中学生や保護者にとって分かりにくく、その利点を丁寧に説明する必要がある
単位制高校		
高校＋α（5～6年）	<ul style="list-style-type: none"> □ 専門性を深めるユニークな学びが提供できる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中学生や保護者にとって分かりにくく、選ばれにくい ■ 専門高校との違いがわかりづらい ■ 財政面での実現可能性が低い
高校＋専攻科		
高等専門学校		
中高一貫校（6年）	<ul style="list-style-type: none"> □ 6年一貫教育は私立でも実績があり、中学生や保護者にとって理解しやすい □ 時間をかけて生徒を育成し、主体性を育む「余白」を生み出しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特段の課題はなかった
中等教育学校		
中等部＋高校（併設型）		

【方向性】

単位制高校
か
中高一貫校
(主として中等教育学校)

2. 規模について（第3回資料にて提示）

【現時点における事務局の想定】

市がもつ学校（高校）の学級数：現在の14学級⇒将来は8～10学級程度が上限

具体的な学級数は、今後の県との調整において決まることを想定

学びの内容・実現等についての意見

① 教育の「余白」の重要性

- 生徒が主体的に学び、自らの強みを伸ばすためには、教育課程に「余白」を設けることが不可欠
- 高校段階では単位の組合わせによって、6年制の学校では学習の前倒しによって、余白を生み出すことが可能

② 外部人材と教員育成

- 多様な学びを実現するために、特別免許状制度などを活用した外部人材の積極的な導入が必要
- 教員自身の経験値を高め、力量を向上させるための仕組み(教員交流等)も不可欠

③ 地域との連携

- 地域への愛着を育むには、単に地域を学ぶだけでなく、他者からの評価や人との強固な繋がりを築くことが重要
- 静岡市がコーディネーター機能を持つなど、学校単独ではない仕組みづくりが求められる
- 地方と都市部の生徒同士の積極的な関わり、先進的な企業等との連携
→ 静岡市の地方創生につながる

千代田区立九段中等教育学校の概要

- 募集定員160人(4学級)である。2025年度入試の志願倍率は、A区分(千代田区内:定員80人)が2.78倍、B区分(千代田区以外:定員80人)が3.9倍であった。
- 進路状況は、海外の大学や難関大学など、4年制大学への進学が主な進路先である。
校長先生は、“学校の目標は大学に入るための高校や予備校ではなく、大学合格よりも先の「力」をつけることであり、大学実績は生徒が頑張った結果である”と捉えている。
- 6年間の一貫教育の特色・強みを生かした「九段探究プラン」**を通して、未来を創っていく探究人の育成を目指している。
- AIの活用をはじめとした**教育DXの最前線**を走っている学校である。
- グローバル人材の育成、外国語教育の充実**も大きな特徴である。
- 東京都が採用した教員から、基本的に「学校公募」や「東京公募」といった制度を通じて、自ら手を挙げて応募してきている人が多いため、20代や30代の若い教員が多く、新しい取り組みや学びに関して積極的な先生方が集まる傾向にある。また、教員数は、都立の定数よりも10人程度多く配置されており、正規教員数は69名である。



富士見校舎は、九段校舎と道路を挟んだ場所にあり、1～4年生は九段校舎、5・6年生は富士見校舎で学んでいる。

国際交流(グローバル人材育成・外国語教育)

- 海外研修(全員参加)
 - ・3年生:オーストラリア研修旅行 7泊8日(11月)
 - ・5年生:シンガポール研修旅行 3泊5日(10月)
- 選抜制の海外研修制度(UCLA海外大学派遣研修、シリコンバレー派遣研修、英国語学研修)
- 海外の大学との連携(イギリスのバンガー大学など6つの大学と連携)
- イングリッシュシャワー(日常的な国際交流の場)
近隣大学の留学生が訪れて出身国の文化や様々な話題について英語でコミュニケーションをとっている。(1年～5年生)

教育DX

- 文部科学省の「リーディング DX スクール」「生成 AI パイロット校」「DX ハイスクール」のトリプル指定を同時に受けており、AI/DX教育の「実装」と「研究」の両面で国家的なモデルケースとしての役割を担っている。
- 独自の校内生成AIシステム「otomotto」を開発・運用している。

千代田区立九段中等教育学校の教育課程等（6年間の一貫教育）

「九段探究プラン」

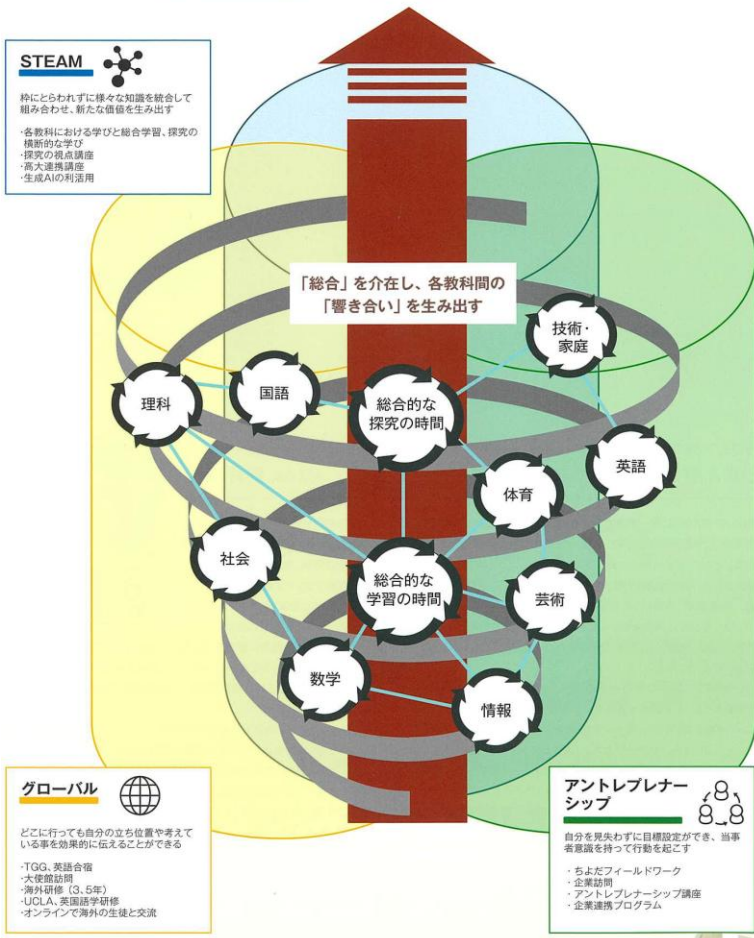
中高一貫校の特色を活かした「九段探究プラン」を通して
「自分らしさを発見し、未来を創っていく探究人」の育成および学びが循環する学校を目指します。

九段まなびスパイラル 未来を創っていく
探究人に

STEAM

枠にとらわれずに様々な知識を統合して
組み合わせ、新たな価値を生み出す

- 各教科における学びと総合学習、探究の
横断的な学び
- 探究の視点講座
- 高大連携講座
- 生成AIの活用



単位数 時間数	前期課程			後期課程		
	基礎学力養成期 1年(22回生)	2年(21回生)	3年(20回生)	充実期 4年(19回生)	発展期 5年(18回生)	6年(17回生)
1				現代の国語	論理国語	論理国語
2	国語	国語	国語	言語文化	古典探究	体育
3				地理総合	公共	英語 コミュニケーション Ⅲ
4	社会	社会	社会	歴史総合	日本史探究 または 世界史探究	論理・表現Ⅲ
5				数学Ⅰ	数学Ⅱ	
6				数学Ⅱ	数学Ⅲ	
7	数学	数学	数学	数学Ⅲ	数学Ⅳ	
8				物理基礎	化学基礎	
9	理科	理科	理科	化学基礎	化学	
10				生物基礎	物理または生物	
11	音楽／美術	音楽 美術	音楽 美術	生物基礎	物理または生物	
12	保健体育	保健体育	保健体育	体育	体育	
13				保健	保健	
14	技術・家庭	技術・家庭	技術・家庭	芸術Ⅰ	英語 コミュニケーション Ⅱ	
15				英語 コミュニケーション Ⅰ	英語 コミュニケーション Ⅱ	
16	英語	英語	英語	論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	
17				情報Ⅰ	家庭基礎	
18	E・A 道徳	E・A 道徳	E・A 道徳	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	
19	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	
20	HR	HR	HR	HR	HR	

選択授業（6年生）

自由選択科目

【国語】	【社会】	【数学】	【理科】
国語演習 α	公共 α	応用数学	物理演習
国語演習 β	公共 β	数学探究	物理基礎演習
国語演習 γ	世界史探究 α	総合数学Ⅰ A	化学演習
国語演習 Δ	世界史探究 β	総合数学Ⅱ BC	化学基礎演習
	日本史探究 α	論理数学	生物演習
	日本史探究 β		生物基礎演習
【英語】	【情報】		
発展英語演習	情報探究		
標準英語演習	情報Ⅱ		
	政治・経済		

POINT

外国人留学生による イングリッシュシャワー

1～3年生は隔週で、4～5年生は週1回、ホームルーム
教室に東京大学等の近隣大学の主に大学院に在籍する
外国人留学生が訪れて、出身国の文化や様々な話題に
ついて英語でコミュニケーションします。

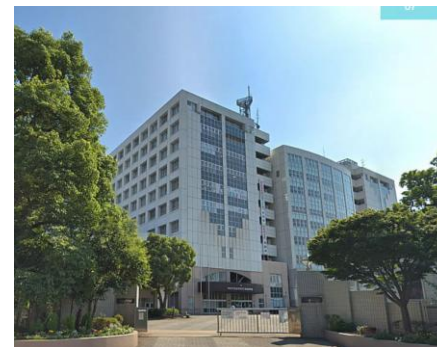
- 5年生までは、文系・理系にクラス分けせず、全教科・科目をバランスよく総合的・体系的に学ぶ教育課程。6年生では、一人一人の進路希望に合わせた科目を選択
- 中等教育学校に認められている「教育課程の特例」（必須教科の授業時数を減らし、選択教科の時数を増やすなど）を活用し、緩やかな先取り学習を行っている。
- 多くの授業で少人数指導やTTを取り入れ、生徒個々の学習進度に合わせた指導をしている。（Ex 英語は全学年で1クラス20名以下の少人数指導を行っている。）

新しい静岡市立の学校での展開例

- 6年間の一貫教育の特色・強みを生かした探究を軸とする教育の実践（参考：九段探究プラン）
- 教育課程の特例の活用による緩やかな先取り学習、総合的学習（探究）の時間の充実、余白の創出
- 3年生、5年生での海外研修。（海外研修を目標とした英語学習の充実）
- 日常的な国際交流の場としてのイングリッシュシャワー等、近隣大学（静岡大学・県立大学・常葉大学などの留学生（多国籍）が授業に参加する授業を全クラスで週1時間実施

神奈川県立神奈川総合高等学校の概要

- 1995年(平成7年)に神奈川県内初の全日制普通科単位制高校として開校
- 普通科に「個性化コース」と「国際文化コース」の2コース、舞台芸術科(令和3年4月開設)を設置
- 令和7年4月1日現在の全校生徒数は766人(女子567人/男子199人)
- 令和7年度前期入学者選抜の志願倍率:
普(個性) 1.69倍(201/119人) 普(国際) 1.42倍(126/89人)
舞台 1.90倍(57/30人)
- 90分授業を導入し、生徒は合格直後から個別ガイダンスを受け自分で時間割を作成
- 令和7年3月卒業生(232人)の進路状況:
大学進学72%、専門学校約5% 国公立や早慶上理など難関大学への合格実績
- 東急東横線東白楽駅徒歩3分、JR東神奈川駅徒歩8分など、複数の駅から徒歩圏内、神奈川工業高校の敷地内に併設されており、食堂・図書館・室内プールなどを共用



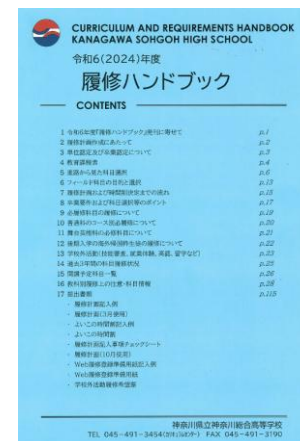
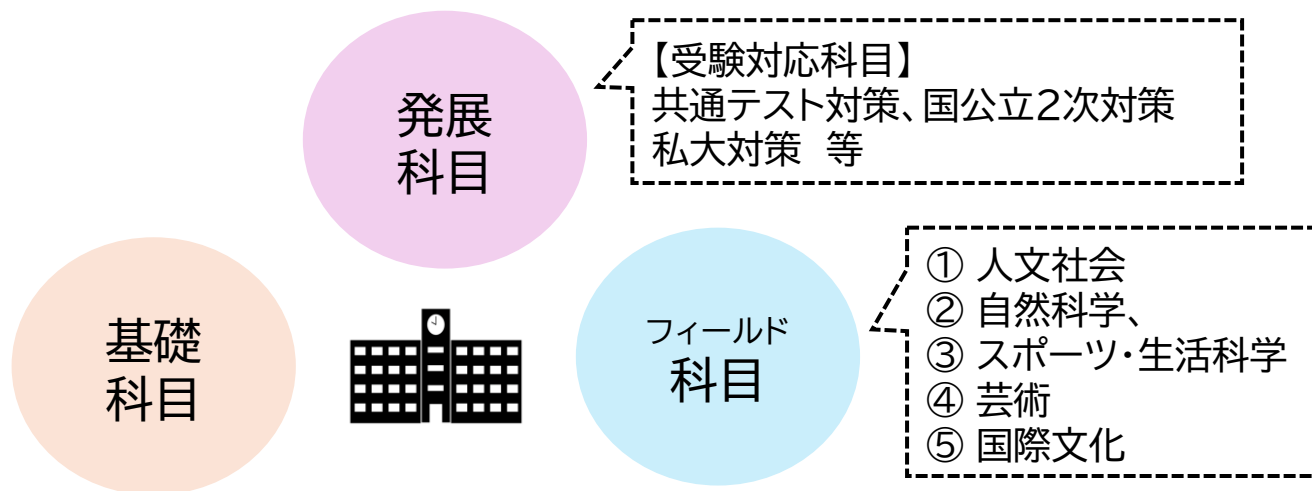
国際交流(グローバル人材育成・外国語教育)

- 神奈川県の指定事業:「県立高校改革」(第Ⅲ期)グローバル教育研究推進校(令和7~9年度)
- 海外7か国(アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・スペイン・中国・韓国)のパートナー校との交流事業
- 普通科・国際文化コースの生徒は、第二言語が必修
- エキスパートレクチャー(国際問題の専門家による講演会)
- ワールドカフェ(他校を交えて国際問題について英語で議論)

多種多様で専門性の高い学び

- 120以上の講座の開設
- 常勤よりも多い専門家・実務家(非常勤講師や嘱託講師)による、専門性の高い指導
- 普通科と舞台芸術科(専門学科)の併置による教科横断的な学びの提供
- 少人数教育(10~20名程度)を可能にする小規模の教室や多目的に使用できるフリースペース

神奈川県立神奈川総合高等学校の教育課程等(全日制単位制)



自分で作る「MY時間割」

半期で
単位認定

- 普通科(個性化コース): フィールド科目から3単位以上履修
- 普通科(国際文化コース): 語学及び国際理解を深める科目を6単位以上履修
第2外国語必修
- 舞台芸術: 舞台芸術に関わる科目から25単位以上履修

新しい静岡市立の学校での展開例

- 生徒の興味関心に応じた多様な選択科目に加え、**静岡市独自の科目(市設定科目)**の設置することで、静岡市への愛着を深める。
- 質的供給が存在意義であることを踏まえ、**静岡市の地域・産業特性(例:海洋や観光等)**を踏まえた、**専門性の高い特色あるコースを設置**する。
- 必修の探究活動を教育課程の核として位置づけ、**静岡市の教育資源や外部人材を活用した探究的な学びを推進**する。

Ⅲ 「新しい静岡市立の学校」に関する具体的な提案

1 「新しい静岡市立の学校」の設置形態

(単位制高校・中高一貫校でできること)

協1 2 「新しい静岡市立の学校」における学び

(中核となる分野と学びの展開例)

(事務局提案)

“静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人”の育成に資する「新しい静岡市立の学校」における中核となる分野と学び

国際・グローバル + 情報・理数

※国際・グローバルは、単なる英語教育の強化に留まらず、世界と繋がる経験をとおり、広い視野で課題解決に取り組むことができる人材の育成に資する学び。

【中高一貫】

共通（基礎的な学び） 国際・グローバル +情報・理数	国際・グローバル
	情報・理数

中1

高3

【単位制高校】

共通の科目
選択科目 (国際・グローバル、情報・理数の科目を設置)

事務局提案として、中核となる分野と学びを“国際・グローバル+情報・理数”に設定した理由

【市立高校の新たな意義】 量的供給⇒質的育成

少子化(2040年までに中学生約4割減)が進む中、市立高校の意義は、設立当初の「量的な供給責任」から「**質的な人材育成(静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人)**」への転換にあり、県立・私立高校にはない独自性を追求する必要がある。

【産業界の求める人材 (市の商工会議所)】 VUCA時代への対応力

産業界は、予測不能なVUCA時代に対応するため、「**知的好奇心**」「**挑戦心**」を持ち、「**デジタル**」と「**グローバル**」を使いこなし、**理数・データサイエンス・AI**の知識を持つ文理横断的な人材を求めている。

中核となる分野と学び

国際・グローバル+情報・理数

【市の教育大綱】

静岡市教育大綱では、「新たな時代で活躍できる多様な才能・能力を伸ばす」ことが基本方針とされ、特に**デジタル等の成長分野で活躍できる人材**や、起業家(アントレプレナー)が生まれる環境整備が重点的な取り組みとされている。

【国の教育改革の方向性】 探究、DX、グローバル

国の高校教育改革では、デジタル分野を支える**情報活用能力・理数系教育**の強化や、**グローバル人材**の育成も重要な要素の1つになっている。

国際・グローバル系＋情報・理数系 を中核となる分野・学びとした場合の **展開例** (協議のための呼び水)

	探究活動 ※	教科・行事
国際・グローバル	<p>○テーマ : 海や港、貿易港に関するテーマ「持続可能な港町と観光」など。</p> <p>○国際連携: 世界の港湾都市(ロッテルダム、釜山など)にある学校や、海洋研究機関の学生とリアルタイムでデータを共有・比較分析し、多文化チームで課題解決策をデザインする。</p> <p>●ねらい : 地域で得た一次情報に国際的な視点とデジタル分析を加え、ローカルな問題をグローバルな解決策に昇華させる。</p>	<p>○海外研修(中高一貫の場合は2回。)</p> <p>○英語学習の充実として、静岡市に在住する国際交流員や、静岡大学・県立大学・常葉大学などの留学生(多国籍)が授業に参加。5名程度のグループに1名配置。全学年・全クラスで週1時間実施</p> <p>○オンラインによる海外の学校との連携(1対1が理想)</p> <p>○新たに新設されるインターナショナルスクールとの連携</p>
情報・理数	<p>○テーマ : 静岡茶のブランド戦略。</p> <p>○情報との関連:</p> <p>他のブランド戦略調査、お茶のおいしい淹れ方のデータ収集、データ分析、情報デザイン、可視化等。</p> <p>●ねらい : 身近にある静岡茶についてデータにも基づく分析を行い、その良さを再発見するとともに、販路拡大を目指したブランディングを探究する。また、お茶のおいしい淹れ方等において、科学的な探究の動機とすることができる。</p>	<p>【情報】</p> <p>○体育の授業における各々のデータ(例: 持久走におけるタイム、心拍数、距離)など、生徒にとっての身近なデータを分析の材料にするなど、情報と他教科との連携を図る。</p> <p>○情報Ⅱの開設。(単位ごとに専門性を有するの外部人材を活用)</p> <p>○データサイエンスに関する科目開設(統計学、実習等)</p>

※ 探究活動をもっと深めたい生徒にとっては教育課程外の活動として支援する。

I 提案の背景と目的

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 市立の高等学校を取り巻く環境の変化 | (少子化、私立無償化、国・県の高校改革) |
| 2 市立の高等学校の現状と課題 | (伝統と歴史、功績、志願状況の課題) |
| 3 設置意義の変化と本検討の目的 | (量的供給責任 ⇒ 質的供給責任) |

II 「新しい静岡市立の学校」の設置意義

- | | |
|--------------|------------------|
| 1 ビジョンとコンセプト | (これまでの検討状況から再整理) |
| 2 設置形態の検討経緯 | (どのように7⇒2に集約したか) |

III 「新しい静岡市立の学校」に関する具体的な提案

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1 「新しい静岡市立の学校」の設置形態 | (単位制高校・中高一貫校でできること) |
| 協1 2 「新しい静岡市立の学校」における学び | (中核となる分野と学びの展開例) |

IV 提案の実現に向けた意見・要望

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 迅速な方針決定と丁寧な説明 | (アンケート結果、市民への情報公開) |
| 2 教職員体制の抜本的改革 | (県100%依存からの脱却) |
| 3 持続可能な地域連携の仕組みの構築 | (市のコーディネーター機能) |
| 4 魅力ある教育環境への積極的な投資 | (生徒の創造性を刺激する施設・設備) |
| 5 在校生・教職員への配慮と県との連携 | (学習環境の維持、県教委との情報交換) |
| 6 中長期的な視野をもった学びのデザインの検討 | (2040年を見据えた静岡市ならではの学び) |

対 象	静岡市立の小中学生の保護者(小1～中2) (∵ 将来の静岡市立の学校とし、将来世代の保護者に意見を聞く)
実 施 時 期	12月上旬の2週間【予定】
方 式	Webアンケート (QRコード) 非記名式(学年と学校名は選択)、選択式(質問は3問)
質 問	①回答者属性 ①中等教育学校について + 自由記述(任意) ②併設型中高一貫校について + 自由記述(任意) ③単位制高校について + 自由記述(任意)

アンケート(案)

アンケートの趣旨

静岡市では、市立の2高校(静岡市立高校と清水桜が丘高校)について、最近の志願状況および将来の15歳人口の減少予測を踏まえ、静岡市の地域特性を生かした特色ある学校としての在り方を検討しています。具体的には、本年度、有識者による「静岡市立の高等学校の在り方検討委員会」を立ち上げ、様々な協議を行っているところです。今般、検討委員会から「新しい学校」の設置形態として、中高一貫校(主に完全なる6年一貫教育の中等教育学校、副として高校からの入学を認める併設型の中高一貫校)か全日制単位制高校の設置が望ましいのではないかという方向性が出されました。今後は、静岡市としても検討委員会の提案を踏まえ、検討を深めていく予定です。

本アンケートは、検討委員会で提案された設置形態(方向性)に対して、近い将来、お子様が高校生(中学生)になる保護者のみなさまの意見を伺いたいと考え実施するものです。ご協力をお願いします。

回答上の注意点

- ・「新しい学校の姿」は、現在の静岡市立高校、清水桜が丘高校の**どちらかの高校を特定するものではありません。**
- ・本アンケートはお子様の進路希望の調査ではありません。お子様が**進学を考える該当学年になる(であった)ことを想定いただき、その際の進学先の選択肢の1つになり得るか**をご回答いただくものです。
- ・検討委員会の資料や議事録は、市HPに掲載されています。詳細を知りたい場合は、こちらを参照ください。

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/fuzokukikan/s2693/s008575.html>

回答者属性

Q お子様の学年を教えてください。(複数回答)

☐小1 ☐小2 ☐小3 ☐小4 ☐小5 ☐小6 ☐中1 ☐中2

Q お子様の小学校(小1～小6を選択した場合) <小学校一覧から選択>

Q お子様の中学校(中1～中3を選択した場合) <中学校一覧から選択>

Q1-1 「中等教育学校」の設置について

検討委員会では、「将来の静岡市立の新しい学校」として、中高一貫校、特に中学と高校を合わせた6年制の「中等教育学校」(高校入試がないため、完全なる6年間の一貫教育を実施)が案として提案されました。お子様の進路先として、候補になり得るか等の意見について、次の選択肢から1つだけ選んでください(中学生の保護者におかれましては、お子様が小6だったと仮定してお答えください)

- 1 十分候補になり得る。
- 2 通常の公立中学校への進学が基本であるが、このような選択肢があってもよい。
- 3 通常の公立の中学校、または私立中学校しか考えられない。
- 4 その他(自由記述)

Q1-2 【任意】中等教育学校に関してご意見がありましたら、簡潔に記入してください。

Q2-1 「併設型中高一貫校」の設置について

検討委員会では、「将来の静岡市立の新しい学校」として、併設型中高一貫校が提案(中高一貫校の副案)されました。この併設型中高一貫校は、高校に中学校が併設する形態で、中学校から入学し6年間の一貫教育を受ける生徒と、高校から入学する生徒が混在する学校です。(市内にも私立学校や県立清水南高校・中等部が同様の形態で存在します) お子様の進路先として、候補になり得るか等の意見について、次の選択肢から1つだけ選んでください。

- 1 中学校への入学または高校への入学に際し、十分候補になり得る。
- 2 通常の公立中学校への進学、または今ある高校(普通科や専門学科(工業・農業・商業等))への進学を基本に考えているが、このような選択肢があってもよい。
- 3 通常の公立の中学校や私立中学校、または今ある高校(普通科や専門学科(工業・農業・商業))だけしか考えられない。
- 4 その他(自由記述)

Q2-2 【任意】併設型中高一貫校に関してご意見がありましたら、簡潔に記入してください。

Q3-1 「単位制高校(全日制)」の設置について

検討委員会では、「将来の静岡市立の新しい学校」として、学習の自由度が高い(生徒の関心や進路に合わせやすい等)高校である「全日制課程の単位制高校」が案として提案されました。お子様の進路先として、候補になり得るか等の意見について、次の選択肢から1つだけ選んでください。

- 1 十分候補になり得る。
- 2 基本的には今ある高校(普通科や専門学科(工業・農業・商業等))を考えているが、このような選択肢があってもよい。
- 3 今ある高校(普通科や専門学科(工業・農業・商業))だけしか考えられない。
- 4 その他(自由記述)

Q3-2 【任意】単位制高校(全日制)に関してご意見がありましたら、簡潔に記入してください。

「中等教育学校」ってどんな学校？

～新しい6年間の学び～

【対象】
中学入学段階のお子さま



特徴

- ① 中高6年間で1つの学校で学びます
- ② 受験は中学入学時の1回だけ(高校入試はありません)
- ③ 中1から高3まで、一貫した教育プログラムでじっくり学力を伸ばします
- ④ 多様な個性や興味を伸ばす独自のカリキュラムが展開されます

メリット

- ① 6年間をかけて計画的に学べます
- ② 高校受験の負担がなく、課外活動や探究活動に集中できます
- ③ 異年齢の交流を通じて社会性が育まれます

「全日制単位制高校」ってどんな学校？

～自分で時間割をつくる高校～

【対象】
高校入学段階のお子さま



特徴

- ① 毎日通学する「全日制」の高校です
- ② 学年ではなく「単位」を修得して卒業を目指します
- ③ 必修科目以外は、自分の興味や進路に合わせて授業を選べます
- ④ 大学のように一人ひとりが異なる時間割になります
- ⑤ 留年はありません(修得できなかった単位は翌年度以降に挑戦できます)

メリット

- ① 自分の興味や将来の夢に直結する授業を選べます
- ② 大学進学に向けて必要な科目を重点的に学べます
- ③ 主体的に学ぶ力が身につきます